

4の3 図画工作科学学習指導案

6月2日(木)3限 図工室

齊藤 江利子

1 題材名 気持ち図鑑をつくろう

2 題材のねらい

絵の具を使い、自分のかきたい気持ちを色や形、技で表すことに意欲的に取り組み、工夫して表わそうとする。自分や友達の表現のおもしろさを感じることができる。

3 題材でめざす学ぶ楽しさ

自分の描きたい気持ちを表現するために、どんな色や形、技を用いるのかという「こだわり」をもち、交流の中で自他の表現の意図や特徴を感じ取り、表現に生かし、気持ち図鑑にまとめる楽しさ。

4月から4年生では絵の具を使った学習をしてきた。初めに、好きな色を作ってその色のもつ「感じ」を表す言葉を考える活動。次に、3原色を混色することで虹の色を作った後、もっと沢山の色を作り出すことに挑戦した。その次に、絵の具を使った技法（にじみ、吹き流し、ビー玉ころがし、スパッタリングなど）を試して、いろいろな表し方を見つけた。

本題材では上記の学習をいかしながら気持ちを絵の具で表し、図鑑にまとめる。すきな色の「感じ」を表すことばを考える学習をした時、空の色、メロンの色など具体的な言葉はでてくるが、「感じ」はなかなか出て来なかったため、グループで話し合いながら、空一さわやかなど、言葉をひろげて考える時間をとり、ワークシートに書くことで、言葉を増やした。そのときの言葉を手がかりに、気持ちを表すことへの思いをもたせたい。気持ちを表すために、どんな色、形、技で表すとぴったりくるのか自分なりの「こだわり」をもって表現できることをめざしたい。交流の中で自他の表現の意図を感じ取り、次の表現にいかし、作ったものを気持ち図鑑にまとめて、自分の表現を再認識できるようにする。

4 題材計画（総時数6時間）

主な活動と内容	学ぶ楽しさを味わうための手だて
1 絵の具の色や表し方で気持ちや感じを表すことができることを知る ○作品例をみて、感じたことを話し合う。 ・こんな気持ちだと思う。わけは・・・だから。	(1) 形や色などとお出合い、試しながらイメージをふくらませる ・作品例を提示し、形・色・技からどんな気持ちか考えることで、自分が表現するための思いがもてるようにする。
2 表したい気持ちを自分なりの形や色で表す ○気持ちを色や形、技で表す ・色の「感じ」をあらわす言葉を参考にして気持ちを色や形で表わすことを考える ・気持ちを表すのにぴったりの技を見つける ○自他の表現から気持ちを想像し、お互いの表現の意図や特徴を感じ取り、新たな表現に取り組む。（本時） ・新しいアイデアがひらめいたよ。 ○いろいろな気持ちを表す ・ウキウキした気持ちにしたいな。	(1) 形や色などとお出合い、試しながらイメージをふくらませる ・いろいろな技を試すことができるよう、できるだけ用具は子どもの思いに対応する。 (2) かかわりを通して表現の幅を広げる ・友達の表現のおもしろさを感じ、自分の表現に取り入れたり、新しい表現のヒントとする。
3 気持ち図鑑をつくる ○描いた気持ちを集めて、図鑑にまとめ、見合う ・たくさんの気持ちが集まったよ。 ・うれしい気持ちが気に入っているよ。 ○図鑑を見合う ・○○さんの図鑑が、気持ちが伝わるよ。 ・○○さんらしい図鑑になっているね。	(3) 学びを自らの表現に反映させ、思いを実現させる ・気持ち図鑑にまとめることで自分の表現を再認識できるようにする。

5 本時の学習

(1) ねらい

自他の気持ちの表現を感じ取り、より気持ちにあった表現を工夫して見つけようとする。

(2) 本時における学ぶ楽しさ

友達の表した気持ちを推測しながら鑑賞し、自他の表現の「こだわり」を感じ、次の表現へ生かそうとする楽しさ。

(3) 展開

時	学習活動と子どもの姿	学ぶ楽しさを味わうための手だて
<p>25</p> <p>15</p> <p>5</p>	<p>1. 前時の学習をふりかえり、本時の課題を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを絵の具であらわしたよ。 <p>○どんな気持ちが表せたかな、班で鑑賞しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(作者) 私の気持ちカードはどんな気持ちでしょうか？ ・色がカラフルだからにぎやかな気持ちだと思う。 ・点がはねているからうれしい気持ちだと思う。 ・(作者) 表したかった気持ちと「こだわり」を話す。 ・当たった。すごくわかりやすかったよ。 ・ふーん、そうだったのか。そんな気持ちは思いつかなかったよ。 ・その技が気持ちにぴったりだね。 <p>○他の班に紹介したいものはありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは○○な気持ちがよくわかります。わけは……です。 <p><もっと！気持ちにぴったりの表し方を工夫しよう></p> <p>2. 表したい気持ちに合わせて色、形、技を考え、工夫する</p> <p>○もっと！気持ちを表していこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらめいた！イライラした気持ちにしよう。形は……色は……が似合うかな。 ・前に作ったものが納得行かないから、もっと工夫したいよ。 ・○○さんの表し方が参考になったな。少し取り入れてみよう。 ・もっと強く表すにはどうしたらよいのかな。 ・この技を思いついたので～を使いたいな。 <p>3. ふりかえり</p> <p>○鑑賞会の後、どんなことを工夫しましたか？参考にしたこともあったら教えてほしいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この表し方が気持ちに合うと思ってやってみました。 ・○○さんの技からヒントをもらって、ひらめき試してみました。 ・この技が気持ちにぴったりだと思うので気に入っています。 ・まだまだ途中でもっと続けたいです。 	<p>(2) かかわりを通して表現の幅を広げる</p> <p>みる視点（色、形、技）、考える視点（作者の表したかった気持ち）話す視点（根拠をもとに話す）をもち作者の表したかった気持ちを想像し交流することでお互いのよさを感じ取ることができる。</p> <p>(1) 形や色などと出会い、試しながらイメージをふくらませる</p> <p>いろいろな技を試すことができるよう、用具はできるだけ子どもの思いに対応する。</p> <p>(3) 学びを自らの表現に反映させ、思いを実現させる</p> <p>必要に応じてアートブックにある技などを参考にする。</p>
	<p>自分や友達の「気持ち」のいろいろな表し方が参考になったよ。少し、工夫することができたよ。納得がいかないのでもう少し付け加えたいな。図鑑にするためには、もっとたくさんの気持ちが必要だな。</p>	